第２回児童館等再編成専門部会
平 成 30 年 7 月 30 日
委 員 提 出 資 料 1

子ども子育て審議会への意見　改訂第３版

（市の方針）

現在のところ西東京市の計画では、「西東京市公共施設等総合管理計画に沿って中学校区に対して１館を目安に、南部地域では５館のうち田無、田無柳沢、新町を１～２館に再編整理」する。「学童クラブは段階的に小学校内へ移設」となっています。

（意見）

①全ての学童クラブを小学校内へ移設すると、多様な環境にある子どもたち（例：その小学校に通学していない子）が通いにくい状況となります。そのため単独設置または児童館併設の学童クラブは引き続き必要と考えます。また市外の学校に通う子どもたちのためにも市内鉄道駅近くへの学童クラブの増設が望まれます。

②学校内への学童クラブの移設では、移動が敷地内に留まるために交通安全面でリスクが下がるメリットがあると思います。しかし校庭、体育館、図書館などの利用で大きな制限がある場合には、単独設置または児童館併設の学童クラブに比較して、より良い学童保育とは言えず、そうした点で配慮が必要に思います。できるのであれば余裕教室を流用するのではなく、敷地内に別棟で学童クラブを設ける方が保育施設として充実を図れると考えます。

③児童館利用者のうち一般利用者の利用が伸びないのは、児童館が併設学童クラブの児童で占められているからではないと考えます。児童館でイベントがある際には多くの子どもが参加していると認識していますが、普段の児童館では、リピート利用していない子どもにとってきっかけが乏しいように思われ、この点についての方策が必要に思います。

1) 現在、学童保育は小学４年生を最年長としていますが、これを小学６年生とすることで、児童館併設学童クラブでは、児童館との関係性もより深まり、その後の利用につながると期待されます。
2) 児童館併設でない学童クラブでも、出前児童館や放課後子ども教室への児童館職員の参画により、児童館への興味も高まると期待できます。
3) 放課後、学校から児童館へ直行できる「ランドセル来館」ができれば放課後の居場所として大いに安心ですし、児童館利用のきっかけになると考えます。その実施に向けてランドセルの保管など課題の解消に取り組んでほしいと願っています。

④また学童クラブの定員超過により児童館の利用比率が上がっているとも考えます。したがって、学童クラブ施設については小学校内への移設ありきではなく各施設で定員を超えないように支援単位を増やすことを優先すべきです。

⑤中高生の児童館利用時間は小学生とは異なるため、学童クラブ児が中高生の児童館利用を阻害しているとは言えません。ひばり児童センター、下保谷児童センターでの中高生利用の好調さを考えると、既存児童館が中高生のニーズに即していないと考えます。ひばり児童センターが中高生の居場所として成功しているのは、体育室が大きいなど施設面が大きいと考えます。また時間帯別の利用数などを検証し、利用者のニーズと児童館の開館時間がマッチしているのか分析し、より効果的な児童館運営を考えていくことでも効率化を図れると思います。

⑥市内の幼児向け保育施設は増えていることからも、今後は成長して学童となった子どもたちの居場所の保障が必要です。施設数が中学校区に一か所以上だから近隣市や都内同規模自治体の平均よりも多いということではなく、人口当たりの施設面積としては確保は十分とは言えず、施設を減らすことは子どもの居場所を保障することになりません。小学生が気軽に利用できる範囲に児童館があることが児童館の利用につながると考えます。また先述のように利用率を上げていく方策が運営面で必要と考えます。児童館併設学童クラブでエアコンが故障した際に児童館へ避難できたケースがあります。猛暑が続く中、避難できる場所（児童館）があり良かったと思います。

⑦子ども目線で考えると南部地域についても施設数は維持したままで、特化型施設の設置が必要です。先行事例を鑑みると新たな特化型施設にも広さを始めとする施設面での充実が必要です。